

No. 329

# 全 仏

6/62



タイ国王御生誕60年祝賀行事の会場へ入る阿部野竜正全仏会長とツアー一行。

(『タイ国王御生誕60年祝賀ツアー』関連記事3～6面)

# 全仏常務理事会開く

去る四月二十七日午後一時から、明照会館会議室で、全仏の常務理事会が開催された。

議長に若槻修道理事長、議事録署名委員に齋藤价洲、岩崎宗秀の両師を選んで議事に入った。

議案第一号「ルンビニー復興事業の推進について意見を求める件」



開かれた全仏常務理事会

## 一二議案を審議承認

若槻理事長より上程。加藤実行委員長挨拶の後、杜多国際文化部長が、復興事業の経過を説明し、まもなく期限切れに

若槻理事長より上程。次の理事会に委員会設置の議案を上程することが承認された。

議案第二号「負担金問題を検討するための委員会設置について意見を求める件」

なる現規約につき、現状に即した改正案を次の理事会に上程したいと説明、承認された。

## 宗教法人セミナー

茨城県仏主権・土浦で

去る五月八日、茨城県仏教会主催による宗教法人セミナー（後援・全日本仏教会、山一證券株式会社）が、土浦市の東武ホテルにおいて開催された。当日の出席者は約九十名。茨城県下は二回目の開催ということもあり、シンポジウム形式の講演では参加者の質問が相次ぎ、大変充実した会となった。

## 同宗連の第7回総会 30数教団が出席して

同宗連（同和問題にとりくむ宗教教団連帯会議）の第七回総会が、去る四月二十三日二十四日の両日にわたり、三十数教団の出席を得て、天理教第三十八母屋において開催された。

今回の総会では、六十一年度事業報告、会計報告がな

された後、役員改選がおこなわれた。

新しく議長教団に曹洞宗、副議長教団に浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、天理教、浄土宗、神社本庁、カトリック教会、

## 差別戒名慰霊法要

比叡山延暦寺で厳修

差別戒名によって、死後もなお不当な差別を受けてきた人々がいる。仏教者がおかした大変な悪行である。この歴史的事実を謝罪し、二度とくりかえさないことを自覚、そしてなによりも、これらの人々の慰霊のための法要、「差別戒名慰霊法要」（主催・天台宗）が、去る五月十五日、開創千二百年慶讃大法要が執行されている天台宗の比叡山延暦寺根本中堂において、多数の関係者を集めて、厳かに執行された。

当日は、天台宗信越教区、岡山教区をはじめ近県地区の関係者、大西正義部落解放同盟中央本部副委員長らが参列。全日本仏教会からは、大山義信同和推進部長が出席した。

あいさつにたった江田広典宗務総長は、これまでの反省と謝罪を述べ、差別のない浄土仏国土建設を誓うとともに、ここに祀られている位牌は法華総持院の阿弥陀堂に奉祀し、永代供養をすることを表明した。

# 「タイ国王御生誕六十年祝賀ツアー」報告

## 総勢七十三名、六日間の旅

五月九日から十四日までの六日間、全仏主催の『タイ国王御生誕六十年祝賀ツアー』（旅行主催・日本旅行）が、各宗派から多数の参加者を集めて施行された。団長を近藤隆敬師（真言宗智山派）、副団長を板垣隆寛師（浄土宗）、新井浄賢師（真言宗豊山派）が務め、全仏事務局から七名、日本旅行から添乗員三名が同行。また、今回の祝賀行事にWFB本部から公式に招待を受けていた阿部野竜正全仏会長（高野山真言宗管長）一行も同行され、総勢七十三名の大旅行団となった。上田社会部次長がツアーの模様を報告する。

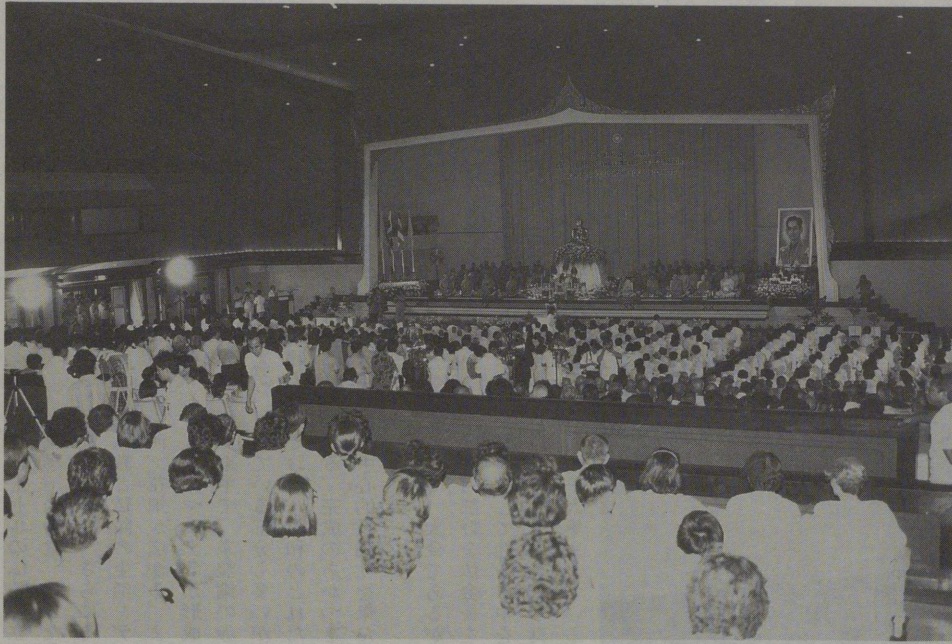
### 全身から吹き出す汗

暑い。バンコク国際空港に降りたつと軽いめまいを覚えた。湿気を多く含んだどんよりした暑さに汗が全身から吹き出す。摂氏三十七度。出発時の日本の気温が二十度ほどであったから、この気温差は厳しい。

皆、元気でたくましい。ただ、所在なさにぼんやりしている若者たちの表情は暗い。バンコクの街中でぶらぶらしている若者と同じ顔だ。バンコクという大都会の陰の姿が仄かにみえる。

翌日、五月十日、午前中は市内観光。観光ボートで運河をいく。水上生活者の家を両岸にみながら、水上マーケットまでの船旅である。彼等の生活をのぞき見していくのは悪趣味であるが、河にむかって開け放たれているため、家の中の様子が、容赦なく目に入ってくる。お年寄りが少なく、子供が多い。泥のような汚れた川で素裸の幼児が水遊びをしている。

網の目のような運河は、チャオ・プラヤ川の大河にそそぐ。大河にのぞむワット・ア alun（暁の寺）、対岸にそびえる王宮、ワット・プラケオ（エメラルド寺院）。しつこくつきまとう物売りの攻撃をすりぬけながらの観光。盗難に気をつけるようガイドさんにいわれているため多少緊張していなければならぬ。それにしても暑い。照りつける太陽に、記念写真のわずかの立ち止まりも苦痛である。



祝賀行事が始まった超満員の大公会堂

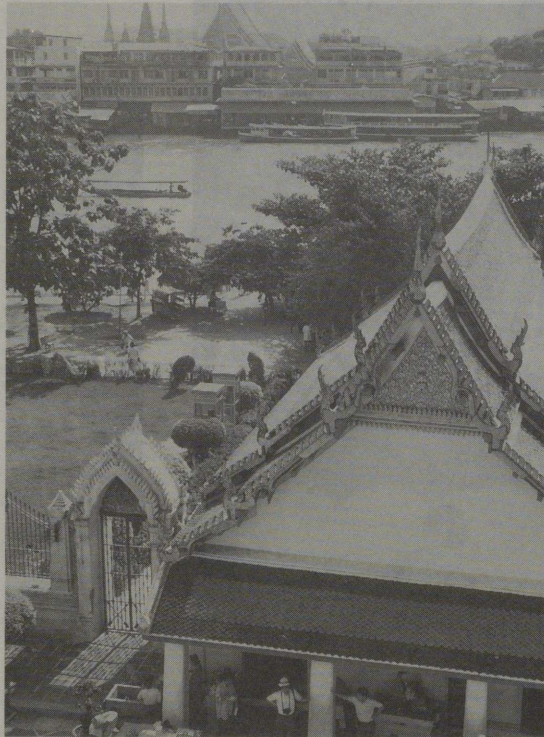
## 読経に数千人が合掌

しかし、この強い日射しを受けて、タイの寺院建築は美しく輝きそびえる。

## 祝賀行事に出席

その日の午後、我々は国王御生誕六十年の祝賀行事に出席した。

『国王の今後の御健勝をお祈りする会』邦題をつけるとすれば、このような題になるであろうか。国王のための読経と瞑想の会である。残念なことに、国王は体調をくずされたとのことで欠席であった。会場は、バンコク市郊外ナコーム・パトオム州の「ブッタ・マンダラ」という千エーカーの広大な公園の中にある大公会堂である。タイ国では、仏教二千五百年を記念して、この「ブッタ・マンダラ」



バンコク、暁の寺からチャオ・プラヤ川を臨む

を建設中。その広大な土地には、全長十五メートルの仏陀の立像を中心にして会議場、公会堂、比丘たちの住居などが点在しており、さらにその間を縫うように、仏教と仏陀の生活をデザイン化した植樹河、花畑が広がる。まさに仏教を象徴する一大マンダラが形成されている。まだ、工事中で、未整備の赤土がむきだしになっている部分も多いが、建物等は完成しており、調和のとれたすばらしい景観である。完成のあかつきには、タイ国仏教の中心的役割りを果たすことになること。

さて、大会であるが、我々ツアー一行は、阿野野全仏会長を先頭に、男女学生が合掌して迎える中を通って、会場に入ってしまった(表紙写真参照)。何千人集まっているのだろうか。と

かく大変な人の数である。ホールの内側のロビーにも席が設置され、会場内の模様が見え、TVモニターで放映されていたが、そこも満員である。

## 賑やかにテレビ放映

WFB各支部代表者、海外からの招待客、タイの比丘たち、そして地元の仏教徒たちが参集。TV局も数社中継に来ていた。聞くところによると、その晩のバンコクのニュースで大会の様子が放映され、全仏ツアーの入場風景も映されたそのである。

舞台上にタイの比丘たち六十数名が上がると、いよいよ開催。まず三帰依文を一同読経。数千人が合掌する様子は壮観である。この会場には世界中の仏教徒が集結している。そんな連帯感を強く感じさせる。

カメラを持って会場内を走りまわりながら、ひとつ驚いたことがあった。それは、TV局の人も、警備の人も、手伝いの学生たちも皆、仕事の手を休めて合掌をしていたということである。この国の人々には、仏教がしみこんでいる。静かな感動があった。

タイ国は、国民の九十三パーセントが仏教徒であるという。そして男子のほとんどが成人するまでに、数年の僧院生活を体験する。そんなところに、この国の仏教信仰の根強さがあるのであろう。プログラムでは、三十分の瞑想の後、各自がろうそくと線香を持って仏陀の立

像まで巡礼することになっていたが、進行が大幅に遅れていたため、残念ながら、我々一行は瞑想が終わった時点で先に失礼した。

翌日の午前中は、バンコク市内にあるWFB本部で開催された『留学僧を励まし、施食をする会』に出席。これは、タイに留学している僧を励まし、また彼等のスポンサーになっている協会の人々を讃える会であり、祝賀行事のひとつとして、五月の第二満月の聖なるこの日に行われた。

前日の会と比べてだいぶ規模は小さいものの、この会場も満員。WFBに加入している世界二十三か国の代表者や、地元の仏教信者などが参集。舞台上には二十数名の留学僧の方々が上がり、読経が続けられた。

## 身体も暑さに慣れて

ところで、前日の公会堂もそうであったが、会場に冷房設備がない。超満員の会場は湿度が高いこともあって大変な不快指数である。

現地の方は慣れていいのか、涼しい顔で汗をかいている様子もない。我々は流れる汗との格闘である。長居は苦痛、早々に引き上げた。

タイで二日間を過ごしたが、ツアーの皆さんは大変元気で、ひどく体調をくずされた方はひとりもない。ホテルが一流で快適であったことと、それに思った

以上に食事が日本人の口にあつたということが、元気のもとであつたらしい。身体もようやく暑さに慣れてきたようである。

### 古都チェンマイへ

その日の夜、ツアー一行のうち、約六十名がチェンマイへ出発した。チェンマイはバンコクから北に約七百公里。ラオ



日本兵の慰霊碑を前に読経するツアー一行

ス、ビルマ国境に近い古都である。飛行機だと約一時間で到着する。

高層ビルが立ち並び、混沌としたエネルギーにみちあふれた国際都市バンコクとは違って、緑が多く、ほこりっぽく、蚊が多く、良くも悪くも大変のどかな地方都市である。バンコクの人々とは、民族が違い、その生活習慣や気質もだいぶ違うそうだが、たしかにそのような趣は感じられた。

ホテルに到着したのは、午後九時をすぎていた。ホテルのややうす暗いタイ式のロビーで、美女が飲物をふるまい我々一行を歓迎してくれた。それにしても、このチェンマイという土地は美人が多い。チェンマイ滞在の二日間、我々は、空港で、おみやげ屋で、デイナーショーで数多くの美女と遭遇した。

話をもとにもどす。

翌日は午前中から寺院めぐり。標高約千メートルの山頂にあるプラタッド・ドイステープ寺院。三百六段の石段を登っていく。その後、市街にもどり王家歴代の墓所があるスワンドーク寺院、千三百年建立のプライン寺院等々を見学。

照りつける太陽の日射しが大変厳しい。帽子をかぶっていないと日射病になりそうで

ある。また、金色に輝く寺院、純白の仏塔は太陽の光を反射させまぶしい、サングラスが必要である。ただ、湿度が低いため、からっとした暑さである。

### 親しみ易いお釈迦様

タイは、上座仏教であり、寺院の本尊はいうまでもなくお釈迦様である。バンコクでみた仏像は、日本の仏像と比べてずいぶん親しみやすいと思っただが、このチェンマイで拝したお釈迦様はさらに親しみやすい印象を受けた。ユーモラスですらある。スワンドーク寺院の大きな釈迦像は、両脇におとうさんとおかあさんの座像を従えている。なんともほほえましい。ほほえましいといえは、寺院の境内にある僧院には、日本でいえば小学生くらいの可愛い修行僧がいた。カメラをむけるとにこにこして応えてくれる。この土地の仏教は、なにかのどこかで心優しい。

### 日本兵の慰霊碑参拝

寺院めぐりの最後に案内されたのが、ワット・ムーンサーン。かつての野戦病院の跡地に建てられた寺院で、インパール作戦で負傷、戦死した日本兵の慰霊碑があるとのこと。猛暑の中の寺院めぐりに、ほとほと疲れ、早くホテルに帰ってシャワーを浴びたいといっていた方たち

も、「それは是非、お参りさせていただかなくては」顔が真剣になる。

その寺はチェンマイ市街にあるごくありふれた寺院であった。門が狭くて、バスが入れないため、門の外でバスから降りた。比較的狭い境内を横切っていくと、資料館のような建物につきあたると、それが、寺院である。その建物の前に慰霊碑があった。昭和五十年に日本から慰霊団が来ている。

早速、阿部野会長を導師に般若心経を一巻読みあげ、碑に花や練香をたむけた。その後、建物の中に入り、我々のお賽銭を、阿部野会長より、その若い住職に手渡し、短かい経を読んでいた。

戦火をくぐってきた方々は、皆さん、それぞれの感慨があるらしく、深くこうべをたれて合掌しておられた。

かつてこの地で、負傷した日本兵が、日本に残した両親や家族をおもいながら、無念の心で息を引き取っていったのである。

戦争といえは、こののどかな土地から数百キロしか離れていない国境付近では絶えずこぜりあいが続いている。隣国のカンボジアの動乱はまだ終結していない。難民がタイに逃れてくる。我々のバスのガイドさん(三十歳ぐらいのラオス国境付近の出身者)もかつて兵役で、腕に弾丸を受けたという。世界は不気味に動いている――。

翌日、我々は、また喧噪のバンコクに

もどり一泊。五月十四日、日本への帰路についた。バンコク国際空港への道すがら、あいかわらず薄汚れた街ではあったが、しかし、来た時の印象とはだいぶ違う。とても親しみを覚えていることが気がついた。

猛暑の中、六日間という短い旅行では

# バンコクで「仏教セミナー」

## 祝賀行事の一環、七ヶ国が参加

タイ国王御生誕六十年祝賀行事のひとつとして、「仏教セミナー」が去る五月九日、バンコク市内にあるタマサット大学において開催された。

このセミナーは、WFB（世界仏教徒連盟）とタイ国六つの仏教会共催によるもので、世界七ヶ国から計八名の発表者が、各国の仏教事情や各宗派の教義実践の特徴などを発表した。

日本を代表しては、松濤弘道師（上野学園講師・浄土宗）が「日本仏教の特質」と題して発表し、大変好評を得た。なお当日の発表者及び題名は次のとおり。

- ①「WFB、世界の多様な仏教徒に於ける一貫性」WFB会長サンヤダルマサクティ氏（タイ）
- ②「上座仏教」ピヤグツシマハテラ師（スリランカ）
- ③「仏法の実践」ジャガロ師（オーストラリア）

あったが、全員無事に全日程を消化することができた。非常に充実した、かつ意義深い旅行であったと思える。

帰った日本は、冷たい雨がそぼふる気温十一度。高温によく慣れた身体にこの低温は厳しかった。

## 国王、各代表者と謁見

- ④「中国仏教、その過去と現在」中国仏教協会会長趙樸初氏（中国）
- ⑤「日本仏教の特質」松濤弘道師（日本）
- ⑥「ヨーロッパに於ける仏教の動向」バカロ師（イギリス）
- ⑦「オーストラリアとニュージーランドに於ける仏教の動向」ウイラグモ師（ニュージーランド）
- ⑧「仏教の同一性」フララジャヴァラムニ師（タイ）

## 国王、各代表者と謁見

ところで、この日の午後四時より、タイ国王プミポン閣下は、バンコク市内の王宮にて、祝賀行事参加のために世界各国よりバンコクで参集したWFB支部代表者、比丘等関係者約百名と謁見され、各代表者より祝意とプレゼントをお受け取りにいられた。

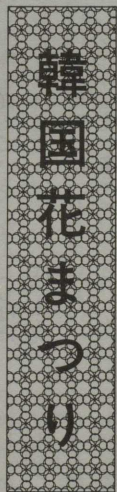
日本からは、かつてタイ国に僧として

留学、長年にわたって日タイ両国の仏教交流親善に尽力した藤井真水師（増徳院住職・高野山真言宗）と、仏教セミナーにて日本を代表して発表した松濤弘道師等が謁見された。阿部野全仏会長も参列することになっていたが、日程の都合がつかず欠席した。

## 国王へメッセージ

阿部野会長が代表して

タイ国王御生誕六十年祝賀行事に公式



## 韓国花まつり

去る五月五日、韓国の首都ソウルにて恒例の韓国花まつり（仏誕二千三百五十年奉祝法要式）が開催された。本会か



祝辞を読み上げる大山同和推進部長

の招待を受け、ツアー一行とともに五月九日にバンコク入りした阿部野電正全仏会長は、タイ国王プミポン閣下へ向けて、世界中の大乗仏教徒を代表してメッセージを送った。

これは、今回の祝賀行事参加のためにバンコクに参集した世界の仏教徒に対し国王閣下より様々な配慮がなされたことへの感謝の意を表したものである。

なお上座仏教徒を代表しては、WFBネパールセンター会長のアムリタナンダ師がメッセージを送った。

## 全仏から大山部長らが参列

らは、大山同和推進部長と瀬戸財務部長が参列。日本からは他に、東京都仏教連合会、曹洞宗の青年会などからも代表者が参列した。

式典は午前と午後、場所を変えて行なわれた。午前中は曹溪寺。境内をうめつくすほどの万燈が彩りを添える中、数十万の参詣者がつめかけた。この他、市内各所の寺院でも観燈祭がおこなわれ、祝祭日とあいまって、どの寺院も家族連れでごったがえした。

午後の式典は、午後六時半より市街の公園で行なわれ、ここでは大山同和推進部長が祝辞を読みあげた。式典の後は、提灯行列が行なわれ、ソウルの街は遅くまでにぎわった。



# 法律相談室

回答・全仏顧問弁護士

長谷川 正浩

(質問)

先般、副主職が結婚しました。そのときの費用は法人から出してさしつかえありませんか。そのとき戴いたお祝いはどのように処理したらよいのでしょうか。

(秋田R寺住職)

(回答)

結論から先にいいますと、結婚費用は個人的な支出と考えられますから、法人から支出することはできません。同様にそのとき戴いたお祝いは、同じ理由から個人的な所得になります。しかし、戴く方の社会的地位からみて相当な範囲内であればそれには課税され

## 副住職の結婚費用

ません。

ところで昭和五十三年に曹洞宗教化研修所が行った「宗門人の意識調査」によれば、寺院の世俗傾向が顕著になったといわれています。そこではつぎの五点が指摘されています。第一は寺院生活が家庭化してきてしまっていること、第二に僧侶のもつプライベートな側面が増大してきていること、第三は僧侶が用僧化していること、第四は徒弟教育が弱体化してきたこと、第五は教養が軽視されていること。これは、全てが公の為と考えられていた従来の

寺院住職の生活に私的な部分が発生してきたことの顕れだと思えます。

しかし一方では、大半の住職方は二十四時間を公の為、寺の為に使っているのだと意識されているのではないのでしょうか。だから客観的には私的なことであっても見方によっては公のため、寺のためと考えられるのもやむを得ないかと思われます。お尋ねの結婚式やその披露もこれに当るかと思えます。即ち寺院住職が後継者を育てることは、法灯を継承させる為の重要な任務です。けれども従弟となるべき人材はそんなに多くはありません。むしろ現今にお

いては適任者をさがすことは困難といわれています。いきおい昔のように厳しい徒弟教育もできなくなります。そして僧侶に妻帯が認められてからは、弟子を自分の子どもにも求める住職が多くなってきました。そして弟子が結婚することは、その弟子の子どもによつて法灯を継承させる可能性がでてきたということになり、寺のため、即ち公の為にも大変慶ばしいことであると考えられるようになったのだと思えます。特に真宗系寺院においては寺院規則のなかで「姓を同じくする者が後継住職

になる」旨の規定がうたわれており、後継者の為に門徒さんらは学資を援助することが慣行として行われているわけですから結婚という一般人にとっては私事にわたることが、公の性格をもってすることも事実です。

しかしながら結婚をしたからといって後継者が決まるわけではありません。寺院住職や副住職たるものは私的な部分もある程度公的責任を負わされるとは云え、このことから直ちに結婚が寺の為の公の行事だとして寺会計から出費することには未だ社会的な合意が得られていないとみるべきだと思います。もちろん、結婚することにより、新たに若坊守や若大黒が誕生するわけですから、その就任披露の費用は当然寺会計から支出して良いわけです。

税金問題は仏教のあり方を改めて考えさせてくれますが、とりわけ寺院生活の家庭化という問題は今後の仏教界の方向を考えるうえで極めて重要だと思えます。

本会では、毎月第二・第四木曜日午後一時から四時まで、長谷川先生による「法律無料相談室」を開設していますので、お気軽にどうぞ。また、本誌「法律相談室」にご質問がございましたら、本会社会部宛お送り下さい(秘密厳守)。

# 全仏30周年記念式典

## 10月7日、増上寺で開催

全日本仏教会財団創立三十周年記念式典は、全仏関係物故者追悼法要、全仏関係功労者表彰、記念講演、祝賀パーティーをもって、本年十月七日に増上寺ならびに東京プリンスホテルを会場に開催されることになりました。

記念講演は、「日本仏教の特質と将来」と題して梅原猛先生が、祝賀パーティーには、五百名の関係者の出席が見込まれています。

詳細につきましては、追って逐一お知らせいたしますが、皆様には今からご都合をつけていただきますようお願いいたします。

### 哀 悼

**西村日地師**  
五月四日、七十二歳で遷化。  
本門佛立宗第十八世講有。本山有清寺住職。

### 事務局録事

—(五月)—

- 一日 金剛院落慶式出席
- 五日 韓国花まつり出席
- 七日 鳥居敬譽師本葬儀参列
- 八日 宗教法人セミナー(土浦)

昭和六十一年六月一日発行  
六月号 第三一九号

九月十四日 タイ国王御生誕六十年祝賀ツアー

- 十日 比叡山開白法要出席  
念法真教新庁舎落慶式出席
- 十二日 神社本庁新庁舎落慶式出席
- 十五日 比叡山差別戒名法要出席
- 十八日 監査会・局内会議
- 二十日 文化庁宗務課との懇談会
- 二十五日 局内会議
- 二十六日 理事会
- 二十七日 宗教部会出席(大阪)
- 二十九日 日宗連理事会出席  
ネパール大使公邸レセプション出席

おことわり 「同和推進のために」は、今回お休みさせていただきました。

## 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

## 株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)  
電話 代表(841) 4965

発行人 野口善雄

発行所

財団法人

全日本仏教会

〒一〇五

東京都港区芝公園四一七―四  
電話〇三(四三七)九二七五



山一の「サンライン」は、ご家庭のパソコンでリアルタイムの証券情報を見ながらその場で売買注文もできる画期的なサービスシステムです。

- リアルタイム株価などの証券情報が得られます。
- 株価チャートをご覧いただけます。
- ご家庭で株式の売買注文ができます。

ご利用時間 朝 7:00 ~ 翌朝 1:00  
(日曜・祝祭日および第2・3土曜日はご利用になれません。)

\*平日8:00~18:00 \*土曜(第2・3を除く)8:00~14:00

「サンライン」専用お問合わせ電話(通話料金無料)  
☎(局番なし)0120-001234

お近くの山一証券でもお問合わせ・お申込みを承ります。  
お気軽にご相談ください。

パソコンでリアルタイムの証券情報や売買注文を。

# サンライン

SUN-LINE

# 山一証券

〒104 東京都中央区八重洲2の4の1  
☎(03)276-3181(代表)